

講座「生きること」開催記録

開催年度	講師	テーマ
1978	高史明 (作家)	人にやさしい ～「生きることの意味」をとおして～
	関広延 (高校教師)	おのれを見つめる ～沖縄にいて視えてくるのは日本ことである～
	金時鐘 (詩人・高校教師)	私と出会った人々
	三好康子 (止揚学園保母) 松井泰子 (止揚学園保母)	子どものためにはなく・ともに ～障害児とともに生きて～
	野本三吉 (横浜市立寿生活館職員)	教育の原型をもとめて ～寄せ場の相互教育～
1979	森滝市郎 (被団協理事長・広島大学名誉教授)	人類は生きねばならない ～私の被爆体験から～
	田島征三 (絵本作家)	生命(いのち)と向きあうとき ～僕と絵本と現世と～
	大川恵美子 (部落解放同盟大阪府連元婦人部長)	まちがいもいっぱいあるわけやね 金もつたら差別はないんや、おもった～差別のなかを生きぬいて～
	丸山友岐子 (評論家)	女の自由 ～我が愛と生の履歴書～
	水上勉 (作家)	人間と風土
1980	金賛汀 (ルポライター)	「壁」とよばれた少年 ～あるいじめられっ子の自殺～
	小林初枝 (高校司書)	なぜ差別はなくなるらないか ～被差別部落に生まれ育ち、そして差別とたたかって～
	真尾悦子 (作家)	「ありのままの人生」 ～貧乏も病氣もいっそそれらと友達つきあいをして～
	齋藤茂男 (共同通信記者)	事実が私を鍛える ～現代を取材しながら考えること～
	さねとうあきら (児童文学者)	子どもが子どもらしさをとりもどす時 ～わたしの児童文学が目指すもの～
1981	田島征三 (絵本作家) 田島征彦 (絵本作家)	ぼくたちの絵の世界 ～土と生命の交感を描いて～
	阪本ニシ子 (部落解放界地区歴史文化を守る会会員)	みんな手をつないでほしいねん ～差別の中を生きぬいて～
	宗秋月 (詩人)	我が町猪飼野を語る
	井上光貞 (小説家)	露天市場から小説は始まる

1981	山内 徳信 (読谷村村長)	基地の中における文化村づくり ～沖縄・読谷村の自治の戦い～
1982	上江州 トシ (沖縄・生活と権利を守る婦人協議会会長)	いなやぐや平和のさちばい (女) (先がけ)
	栗原 貞子 (詩人)	核時代に生きる ～ヒロシマ体験をとおして、今、私たちは～
	朴 壽 南 (作家)	もうひとつのヒロシマ、もうひとつの日本 ～朝鮮人被爆者の体験から～
	水木しげる (漫画家)	戦争のはなし
	斎藤 次郎 (子供調査研究所)	地球は、子どもの遊び場
1983	佐江 衆一 (作家)	ヒトはやむなく路上に眠る ～寿町浮浪者襲撃事件を見すえて～
	神田 三亀男 (日本農業新聞・広島版編集者)	原爆と村の女たち ～聞き書きにこめた思い～
	松下 竜一 (作家)	やさしさということ ～豊前火電建設阻止の闘いの中で～
	徳村 彰 (ひまわり文庫主宰)	激動の中でこそ子どもは育つ ～横浜ひまわり文庫の十一年～
	山谷 哲夫 (映画監督)	なぜ、いま「買春」なのか ～映画を作る根っこにあるもの～
1984	辛 基 秀 (映画プロデューサー)	在日朝鮮人、もうひとつの歴史 ～発掘された真実～
	伊藤 ルイ (博多人形彩色職人)	反戦の日々を生きる ～自然と生への渴仰を胸に～
	寺本 知 (詩人)	熱と光を求めて ～わたくしの出会った人たち～
	保坂 展人 (学校解放新聞社代表)	先生、涙をください ～いこうぜ!学校地獄からの脱出～
	鎌田 慧 (ルポライター)	工場と学校の現場から ～進む管理強化と人間荒廃～
1985	石元シゲ子 (「いのちの底が抜けたア」の著者)	いのちの底が抜けたア
	藤井 誠二 (「オイこら!学校」の編者)	オイこら! 学校
	西岡 務 (全国障害者解放運動連絡会事務局長)	障害者としてあたりまえに生きたい!
	山尾 三省 (詩人)	人間の故郷性を求めて

1985	藪木 禾積 (愚公時習社理事) 松田智江子 (元四国外国語大学教員)	涙の対面以後の帰国者の生活と思い ～戦後四〇年中国と日本のはざままで～
1986	川崎 彰彦 (作家)	ものぐさ人生
	鈴木 みち子 (フリージャーナリスト)	校則にみる人の 「生」と「性」
	佐伯 敏子 (ヒロシマの語り部)	ヒロシマに歳はないんよ
	奥地 圭子 (登校拒否親の会代表・元小学校教員)	学校信仰を越えて ～今、人間としての学びを～
	田中 美津 (子どもと女のからた育て「レラハルセ」主宰)	傲慢は美徳の物語 ～誤解されればなしのウーマンリブ～
1987	金 洪 仙 (前高槻市公立学校における朝鮮人子弟会指導員) 鈴木 常勝 (元中国留学生)	アジアをつなぐ家族
	浅野 健一 (記者)	犯罪報道のあり方を問う
	東淵 修 (詩人)	カンカン(熱中)人生や
	小栗 康平 (映画監督)	映画をとおして
	前川 む一 (「好きです人間展」事務局員)	途切れがちな対話をつなぐために
1988	中西 清太郎 (「廃墟の中から」の著者)	廃墟の中から ～わが水本村の闘い～
	金 香都子 (大阪市立天王寺中学校夜間学級講師)	猪飼野路地裏通りゃんせ
	五十嵐 照美 (日本キリスト教部落解放センター職員)	私と部落解放
	むの たけじ (著述業「たいまつ」新聞主宰)	生きることを問い直す ～昭和史への証言～
	吉田 ルイ子 (フォトジャーナリスト)	見つめられる日本 ～第3世界と私たち～
1989	金 満 里 (劇団「態変」主宰)	私のおるところから見えてくるもの
	萩原 葉子 (作家)	人生はいつも今のなかに
	大島 静子 (女性の家「HELP」前ディレクター)	「アジア出稼ぎ女性」は問いかける ～HELPから見た日本～
	吉田 小百合 (松原教育を守る会)	「更池に生きて」 ～差別によって奪われた子育てをとり戻す～

1989	島 成郎 (精神科医)	心病みながら生きること
1990	阪本 秀夫 (日本教育法学会理事)	子どもの権利条約と校則
	新正 卓 (写真家)	中国残留孤児を撮りつづけて
	あんばいこう (「無明舎出版」経営)	「地方」の視線
	洪 貞子 (宇治ウトロ住人)	私とウトロとの出会い ～生きていかななくては～
	磯本 恒信 (長崎大学講師)	長崎に生きて ～被爆と差別のはざままで～
1991	土本 典昭 (記録映画作家)	記録映画はひとつひとつの合作である
	みなみあめん坊 (「月夜のムラで星を見た」著者)	差別社会を“ムラ”から見れば
	中嶋 昌一郎 (「浪花の板前国賊斬」著者)	はぐれ板前、国賊となる
	岸 キヌエ (部落解放同盟日之出支部婦人部長)	みやらけの子もり唄 ～私の生きてきた道～
	チカップ美恵子 (アイヌ文様刺繍家)	多民族社会は可能か?
1992	上田 音市 (全国隣保館連絡協議会名誉会長)	私の解放運動 ～その七〇年～
	金城 実 (彫刻家) 玉城 利則 (沖縄三線奏者)	復帰二〇年 ～沖縄を語る～
	池田 千鶴子 (放浪の吟遊詩人)	命を見つめ 命を奏でる
	ギリヤーク尼ヶ崎 (大道芸人)	街角に踊るじょんがら一代
	坂岡 嘉代子 (はぐるまの家代表)	はぐるま太鼓 輝かそう子供たち ～ありのままの大人から～
	≪国際先住民族年記念講演≫ 床 スプリ (彫刻家)	私の出会った人々
1993	辻野 ナオミ (ネグロス教育里親運動会長)	近所の国から見た日本
	松本 剛 (弁護士)	HIV(エイズ)と共に 生きる社会をめざして
	武富 富巳男 (「兵士・庶民の戦争資料館」主宰)	“苔むす友を忘れまじ” 彼我多くの犠牲の上に今日がある

1993	斎藤 洋一 (財信州農村開発史研究所研究員)	部落の歴史をとりもどす闘いのなかで
	もろさわ ようこ (女性史研究家)	愛にみちて歴史を拓き 心華やく自立を生きる
1994	木村 美代志 (財大阪府同和事業促進協議会理事)	差別の中を生きぬいて
	梁 石 日 (作家)	持続する意思
	ハツ塚 実 (尾道短期大学非常勤講師)	私の「人間科」授業 ～いのちの灯をかざして～
	谷口 明広 (障害者自立生活問題研究所所長)	夢を抱き、夢をかなえる ～障害と楽しく生きる～
	山田 薫 (星ヶ丘厚生年金病院医師)	障害者の排尿障害治療にかかわって
1995	吉田 正行 (神戸市身体障害者福祉相談員・前神戸市聴覚者協会会長)	盲ろう者の声 ～ボランティアって何だろう～
	牧田 清 (フォトジャーナリスト)	写真をとおして出会った人々
	坂本 信一 (ある地方自治体の清掃現場員「ゴミにまみれて」著者)	ゴミにまみれて
	林 力 (九州産業大学経済学部教授)	学ばされ、生かされて
	桑原 忠史 (徳島県同和問題啓発専門委員)	自分らしく学ぶということについて
1996	花井 十伍 (大阪日ⅠⅤ訴訟原告団理事)	HIV「死の恐怖を越えて 普通に生きたい」
	鄭 承 博 (作家「裸の捕虜」の著者)	私の生きてきた道筋
	池田 栄子 (尼崎市社会同和指導員)	寄り道 まわり道 共に生きるために
	大井 益二 (技術コンサルタント)	見えなくても 明日にむかって
	バルゴ・マイラ (在日フィリピン女性) 園崎寿子 (英・タガログ語通訳翻訳家)	フィリピン女性とその子 「日本に生きる」
1997	バイマーヤンジン (声楽家・チベット出身)	遠くチベットから 日本で暮らして
	和田 武広 (「はじけた家族―手記・結婚差別」の著者)	二度とない人生だか
	村上 初一 (前大久野島毒ガス資料館館長)	伝えておきたいこと

1997	今野 紀世子 (大阪国際平和センター運営委員) (大阪大空襲の体験を語る会代表)	大阪大空襲の生存者として 戦争の恐怖を語る
	金 時 鐘 (詩人・エッセイスト)	私の日本語 私の「日本」
1998	梁 容 子 (「女のための大工教室」主宰)	木を通して人間を考え 人間の営みを通して 美しいものを探す
	金 里 博 (在日ハンゲル詩人)	私が朝鮮語で詩を書くこと -生きること-
	園田 雅春 (高槻市立上牧小学校教諭)	近ごろの子ども事情 -育てたい「自尊感情」-
	武田 靖彦 (広島県原爆被害者団体協議会所属)	子や孫に緑豊かな 平和な世界を残したい
	仲谷 真一 (大阪精神障害者連協会「ほろほろクラブ」事務局長)	精神病になってよかった -「精神障害者」である私の今までの生活から見えてくるもの-
1999	安部 夏丸 (小説家)	雑魚寝ばなし -常識・価値観を考える-
	高橋 卓志 (神宮寺住職・アクセス21代表)	生きること死ぬこと
	乾 千恵 (時に「書」も書くエッセイスト)	自分らしく生きたい -ありのままに 夢を持って-
	金 秀 男 (関西韓国YMCAアジア青少年センター館長)	カネモト・ヒデオから キム・スナムへの道のり
2000	青木 新門 (小説家)	いのちに生かされて -だが少年たちは今-
	金城 馨 (関西沖繩文庫主宰)	大阪から見た沖繩 そして大和
	今里 哲 (シャンソン歌手)	私の人生、薔薇ん、バラん
	東野 健一 (ポトウア／絵巻物師)	遠くて近い国インド そこで出会った事
	中谷 紀美子 (夜間中学校教諭)	教える側が育てられ -30余年義務教育にかかわって-
2001	石田 雅男 (長島愛生園入園者自治会会長)	ハンセン病と私
	鄭 甲 寿 (ワンコリアフェスティバル実行委員長)	ワンコリアを目指す私の想い
	記虎 敏和 (啓光学園高校教諭・ラグビー部監督)	情熱と愛情 -子どもたちの可能性を信じて-
	辻 一 (大阪脊髄損傷者協会会長)	人生をサバイバルからアートへ -障害者のトータル・リハビリテーションから-

2001	本田 哲郎 (釜ヶ崎反失業若者連絡会共同代表・カトリック神父)	野宿をしいられた仲間の願いと連帯したい!
2002	今城 千重子 (宇口老人保健施設「ワガール」支援相談員・元タレント)	いつでも人生スタートライン 好きで歩いたわが半生
	金沢 泰裕 (J・W・M「弟子教会」牧師)	生き方を変えた男!! むかしヤクザ、今牧師
	高平 和子 (人形劇団「クラルテ」所属・人形劇俳優)	人形劇に生きる ～出会いが支えてくれたこと～
	清水マリアルース (ポランティアグループ「イフィック」代表)	異なった文化とともに暮らして
	河野 和永 (NPO法人「陽だまりの会」理事長)	“ありのままに生きる”って難しい……!
2003	藤谷 蓮月 (守口市覚了寺 パンク坊主)	“パンク坊主”宣言 ～生き活きと生きる・共に生きる～
	陳 天 璽 (国立民族学博物館助教授)	無国籍者”として生きること
	米原 耕治 (枚方市障害者卓球倶楽部設立代表他)	“半身マヒ”でスポーツ指導 ～くも膜下出血からの奇跡の復帰～
	片山 旭星 (琵琶奏者)	生き続ける琵琶の調べ
2004	橋中 初男 (コルク昆虫画家)	出来事は我が人生の一ページ
	橋口 高明 (社団法人アジア協会アジア友の会常務理事)	命と「水」を見続けて
	武 るり子 (少年犯罪被害当事者の会代表)	少年犯罪で息子を奪われて
	茨木 四郎 (元公立学校長)	広島呼び 「兵隊さん、ボク、戦争はイヤです」
	島津 良子 (奈良女子大学・立命館大学講師)	婚外子の母として生きる
2005	松原 一則 (作家)	先に死なないで!! -長崎の被爆体験-
	李 福美 (じんけん楽習塾)	出会いからはじまる共生 コリアン系大阪人の立場から
	土肥 いつき (セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク)	ありのままの「わたし」を生きる
	堀尾 貞治 (現代美術作家)	現代美術と僕
2006	牧口 一二 (合名会社おばけ箱代表)	歩かれへんけど 歩いている

2006	有吉 須美人 (ブルースピアニスト)	ブルースの本場シカゴで、日本人が黒人音楽を続けるということ
	館林 千賀子 (同志社大学大学院)	人と人が繋がっている社会 ～介助犬とともに車椅子で生活する中で感じたこと～
	田村 雅子 (野崎観音＝慈眼寺)	ご縁を大切に ありのままに生きる
2007	具志アンデルソン 飛雄馬 (多文化共生NPO世界人理事長)	死んだら終わり だから生きるんだ ～多文化共生へのかけはし
	大城 盛俊 (沖縄戦と平和をつたえる会)	沖縄戦を生き抜いて 命こそ宝(ぬちどうたから)
	森田 隆子 (手記「女学生の戦争体験」発行者)	女学生の戦争体験記 ～大阪香里(爆弾)造りをさせられた乙女たち
	岡崎 武志 (フリーライター)	枚方生まれの我が古本人生
2008	倉田 智恵 (薬物依存症回復施設「タルク」 女性ホーム大阪代表)	死なないこと・心を開くこと・自分を許すこと
	康 玲子 (京都市小学校非常勤講師)	私には浅田先生がいた -在日朝鮮人として
	牧田 アヤ子 (元市議会議員・枚方初の女性議長)	私の60年 -交通局から紡績会社 そして議員に
	笹尾 達朗 (NPO法人あったかサポート常務理事)	非正規労働の時代に生きる
2009	井上 幹一 (NPO法人スペシャルオリンピックス日本・大阪理事)	みんないっしょ 共に暮らすって…! ～スペシャルオリンピックスの活動を通して～
	アゴラ ナタニエル オルウチ (立命館大学経営学部国際経営学科講師)	アフリカ諸国の紛争と人権について
	重岡 恵子 (グループホーム「マナ」管理者)	出会い、ふれ合い、学び愛 ～グループホームでの暮らし生きいき～
	堀江 ひとみ (暴力団被害者の会会長)	勇気をもって闘い続ける
2010	米村 幸純 (TAV交通死被害者の会会員)	僕のほうが青やったのに!!
	阿部 和子 (音楽教育家・合唱指揮者)	生きるのってすばらしい
	木野 秀夫 (元シベリア抑留者)	凍土に眠る幾星霜
	渡井 さゆり (NPO法人社会的養護の当事者参加推進団体理事長)	生かされてしまった命にしないように
2011	木村 鐘夫 (枚方市原爆被害者の会会長)	被爆者を生きる

2011	鶴島 緋沙子 (作家、枚方市自閉症児(者)親の会代表)	トミーのいる街
	う～み (シンガーソングライター)	命の繋がり ～歌が世界を広げてくれた～
2012	平山 眞 (大阪里親連合会中央支部ひまわり会会長)	里親として子供たちと歩んだ30年
	平山 幸子 (大阪里親連合会中央支部ひまわり会相談役)	
	新川 初子 (ひめゆり同窓会大阪支部長)	ひめゆり学徒の沖縄戦 ～命(ぬち)どう宝～
	杉本 郁夫 (有限会社ライズ企画代表・移住経験者の会ラポール代表)	命をつなぐ贈り物 ～自分にしかできないこと～
2013	小林 茂 (ドキュメンタリー映画監督)	ほくたちは生きているのだ ～私のドキュメンタリー人生～
	天野 和彦 (福島大学つくしまふくしま未来支援センター特任准教授)	生きている 生きていく ～Jack天野が福島被災地とともに歩む理由(わけ)～
	茂 幸雄 (NPO法人心に響く文庫・編集局理事長)	命の灯台守 ～東尋坊の“ちょっと待ておじさん”～
2014	安野 ゆうみ・安野 団 (紙芝居師)	紙芝居師の父の遺志を追う ～紙芝居が魅せる世界と吸引力～
	仲間 恵子 (大阪人権博物館学芸員)	大阪のなかの沖縄
	高宮 敏光 (枚方市立杉中学校保健体育教諭)	夢に向かって ～剣道を通して学んだこと～
2014	佐野 章二 (有限会社ビッグイシュー日本共同代表)	ホームレスはビジネスパートナー ～ビッグイシューの試みから～
	金 光敏 (NPO法人コリアNGOセンター事務局長)	民族学級と出会えて ～外国人の子どもたちから見える多文化共生の街づくり～
	上西 祐介 (有限会社はなまる デイサービス統括)	生きる力を、人から人へ ～「福祉」という仕事を通じて学び得たこと～
2015	神原 謙一	全国24,681局の郵便局窓口で 貯金を達成
	道志 真弓 (元フリーアナウンサー)	家族の絆 ～生まれてきてくれてありがとう～
	米田 千鶴 (主婦・チーム祐二実行委員会代表)	野生児がカメラマンと呼ばれるまで
	今西 美奈子	戦後70年、今振り返る戦争と 障害児たちの日々
	坂本 尚志 (元秋田県動物管理センター所長・さかもと動物病院院長)	大切なあなたへ 伝えたいこと

2016	中川 るみ (大阪地方検察庁再犯防止対策室 社会福祉アドバイザー)	相談を通して出会った、素敵な方たち ～悩む力強さに、励まされて～
	西澤 真樹子 (なにわホネホネ団 団長)	動物が生きた証を未来に残す ～なにわホネホネ団の13年から～
	外山 努 (枚方市老人介護者家族の会理事)	僕の妻は認知症 ～夫婦の絆～
	柳岡 克子 (車いすの元気配達人)	生きている喜び ～チャレンジは果てしなく～
2017	林家 染太 (落語家)	笑う門には福来たる ～いじめられっ子のぼくが落語家になったわけ～
	杉野 文篤、杉野 由美子 (認知症の人と家族の会会員)	認知症と共に生きる ～認知症当事者(本人・家族)からの発信～
	倉田 めば (大阪タルク ディレクター)	Help! ～薬物依存者というスティグマを越えて～
	中尾 勇守 (LGBT 講演会講師)	セクシュアルマイノリティーを生きる ～性同一性障害を乗り越えて～
2018	新居 真理 (バクバクの会～人工呼吸器とともに生きる～関西支部幹事)	人工呼吸器があってもみんなと一緒に! ～支援者と地域で暮らす～
	児島 一平 (NPO みんなの未来かいたく 団代表理事)	ひきこもりだった。でも、だからこそ 感じられたことやできたことがあった。
	黄 光男 (ハンセン病家族訴訟原告団副団長)	閉じ込められた命 ～私の母はハンセン病でした～
	菅本 香菜 (株 CAMPFIRE FOOD・LOCAL 担当)	食べることは、生きること～拒食症だった 私が、旅するおむすび屋を始めた理由～
2019	武田 秀司 (福島市立平野中学校教諭)	福島の子もたちと教育現場の今 ～差別や偏見から負けない強い心を育てるために
	井上 鈴佳 (レズビアン の保健室の先生)	あなたの身近にもいるLGBT ～男女やLGBTだけじゃない性のあり方は十人十色
	広野 ゆい (NPO法人DDAC(発達障害をもつ大人の会)代表)	発達障害と生きる ～当事者からのメッセージ
	永野 三智 (一般財団法人水俣病センター 相恩社常務理事)	水俣をとおして社会とつながる
2020	谷岡 哲次 (認定NPO法人レット症候群支援機構 代表理事)	娘が不治の難病と診断されました。 ～「レット症候群」をご存じですか
	大矢 和枝 (東大阪市民在住)	米軍人の父とウチナンチュの母の子として生まれて ～人との出会いの中で沖縄と向き合えるように
	金 秀煥 (南山城同胞生活相談センター代表)	在日3世としてウトロに関わって ～そこから見えた人権と日本社会
	牧 秀一 (NPO法人阪神淡路大震災よろず相談室 前理事長)	人は人によって救われる ～25年間の震災ボランティア活動から

2021	常石 勝義 (元JRA(日本中央競馬会)騎手)	もう一度、大好きな馬と夢を掴みたい ～高次脳機能障害を乗り越えて～
	牛島 貞満 (元東京都公立小学校教員)	牛島満と沖縄戦 ～国内での最大で最後の地上戦から学ぶこと～
	玉井 浩 (大阪医科薬科大学小児高次脳機能研究所長)	命の選別への警鐘 ～出生前遺伝学的検査と胎児の人権～
	柳谷 和美 (おやこひろば桜梅桃李代表)	トラウマとともに、自分らしい生き方を見つけるまで ～サバイバーが語る性暴力・DV・虐待～
2022	坪倉 優介 (ゆうすけ工房 草木染作家)	記憶を失うとどうなるのか？ ～交通事故にあい脳の中まで出血する～
	白石 由美 (市立ひらかた病院副院長兼看護部長兼医療相談・連携顧問)	新型コロナウイルス禍の中で 「生きること」を考える
	清田 悠代 (NPO法人しぶたね理事長)	重い病気のある「きょうだい」がいるということ ～自身の体験と、きょうだい支援の活動から～
	安野 輝子 (大阪空襲訴訟を伝える会)	生えてこなかった足 ～空襲体験記とその後のこと～

人権尊重都市宣言

わたしたちは
おたがいをおもいやり
ときにはゆずりあい
平和で
人にやさしいまちに暮らしたい

人を
生まれや
女と男のちがいや
障害のある・ないなどで
差別せず
一人ひとりを大切にしたい

わたしたちは、これらの願いを実現するため、
ここに枚方市を人権尊重都市とすることを宣言する。

1993年（平成5年）12月17日

枚 方 市

枚方市人権尊重のまちづくり条例 (前文)

すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。

また、個人として尊重され、基本的人権を享有することは、人類普遍の原理である。

この理念をまちづくりに生かし、あらゆる差別をなくし、一人ひとりを大切にするまちを実現することは、私たちの願いである。

しかしながら、今日もなお、人種、民族、信条、性別、障害、社会的身分等による人権侵害が存在していることも事実である。

人権尊重の機運が国際的に高まる中で、私たち一人ひとりがまちづくりの主体となってお互いを思いやる心豊かな住みよいまち、男女が共同して参画できるまちを築いていくことが、今こそ必要とされている。

そこで、世界人権宣言及び日本国憲法の理念並びに本市の人権尊重都市宣言の趣旨にのっとり、私たち一人ひとりの人権が尊重されるまちづくりを進めていくため、ここに、この条例を制定する。

2004年(平成16年)3月15日

枚 方 市

生きること

発行 二〇二三年三月
発行者 枚方市・枚方市教育委員会
枚方人権まちづくり協会